

日本オリエント学会第 53 回大会プログラム

日時 2011 年 11 月 19 日(土)・20 日(日)

会場 ノートルダム清心女子大学

第 1 日 11 月 19 日 (土)

公開講演会 (中央棟 4 階 640ND)・奨励賞授与式 (カリタスホール 1 階)

13:00 開場

14:00～16:50 公開講演会

古瀬 清秀 (広島大学大学院文学研究科、教授)

「広島大学のイラン考古学調査と 25 年目の邂逅」

新納 泉 (岡山大学大学院社会文化科学研究科、教授)

「空間情報科学で描く岡山県の古墳時代」

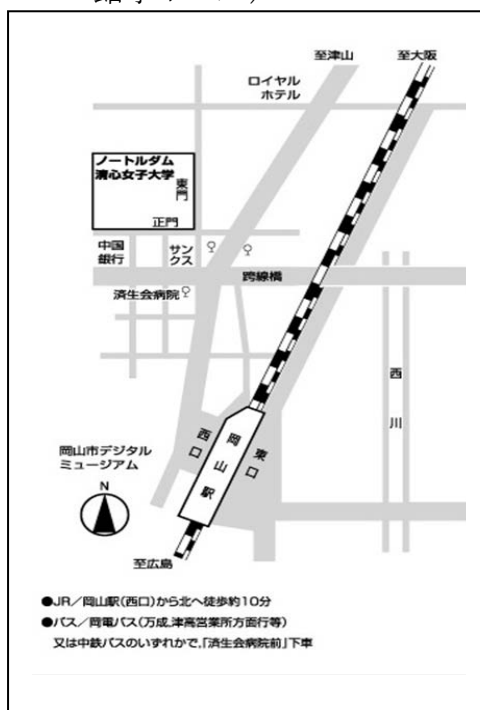
17:20 日本オリエント学会奨励賞授与式

18:00～20:00 懇親会 (カリタスホール 1 階、岡山全日空ホテルケータリング)

第 2 日 11 月 20 日 (日)

10:30～16:30 研究発表会

(630ND、640ND、2-1 セミナー、3-1 セミナー、4-1 セミナー、第一会議室、博物館学ホール)



*大会プログラムと会場案内を送付いたします。大会参加費 2000 円、懇親会費 5000 円、弁当代 (20 日昼) 1000 円 (お茶付) となります。郵便振込用紙も同封いたします。

主催：日本オリエント学会

共催：ノートルダム清心女子大学文学部現代社会学科紺谷研究室
岡山市立オリエント美術館

問い合わせ先：日本オリエント学会第 53 回大会実行委員会

orient@post.ndsu.ac.jp

<http://www.j-orient.com/>

研究発表

第1部会 [第一会議室 (中央棟8階)]

	時間	発表者	研究題目
1	10:30-11:00	西秋 良宏	中東ネアンデルタール人の居住空間
2	11:05-11:35	下釜 和也	南コーカサス地域における中期・後期旧石器時代と旧人・新人の交替
3	11:40-12:10	門脇 誠二	北レヴァント地方における終末期旧石器時代中葉の石器製作伝統
昼休			
4	13:30-14:00	藤井 純夫	ヨルダン南部、ジャッフル盆地における新石器時代のダム・システム
5	14:05-14:35	小高 敬寛	西アジア新石器時代の鉢形土器に見られる突帯
6	14:40-15:10	須藤 寛史	中央アナトリアのカネーン石刃
休憩			
7	15:25-15:55	山藤 正敏	「都市化」前後の磨研技術: 皿・鉢形土器に見る前期青銅器時代のパレスティナ地域の社会・経済的特質
8	16:00-16:30	有松 唯	イラン北部、青銅器時代における暗色磨研土器「拡散」現象の実態

第2部会 [640ND (中央棟4階)]

	時間	発表者	研究題目
1	10:30-11:00	久米 正吾	前・中期青銅器時代ユーフラテス河中流域の都市化と遊牧化
2	11:05-11:35	西山 伸一	海を渡った技術? 北レヴァント鉄器時代の織物産業
3	11:40-12:10	土居 通正	紀元前12世紀前半のキプロス島とレヴァント出土エーゲ海起源の動物文付き土器
昼休			
4	13:30-14:00	小野塚 拓造	エジプト 新王国 の南レヴァント進出とその痕跡
5	14:05-14:35	柴田 大輔	古代メソポタミアにおけるニヌルタ神とマルドゥク神のバラグ祭儀歌
6	14:40-15:10	四角 隆二	サーサーン朝のガラスをめぐって
休憩			
7	15:25-15:55	北 進一	ライオンの東漸と獅子像成立
8	16:00-16:30	ヤマンラール 水野美奈子、 劉 晶晶	サライ・アルバムの中国的絵画における道教的要素

第3部会 [630ND (中央棟3階)]

	時間	発表者	研究題目
1	10:30-11:00	小山 彰	中エジプト語における強調構文と名詞述部文の連関について
2	11:05-11:35	菊地 敬夫	アムドゥアト書の機能について
3	11:40-12:10	馬場 匡浩	エジプト初期国家形成期の土器製作技術
昼休			
4	13:30-14:00	吉村 作治 矢澤 健	エジプト・ダハシュール北遺跡の地下構に対するインターネットを用いた公開方法の検討
5	14:05-14:35	柏木 裕之	第55号墓(ラモーゼ墓)における列柱前室の改変について
6	14:40-15:10	近藤 二郎	テーベ岩窟墓第47号墓の発掘調査について
休憩			
7	15:25-15:55	河合 望	トウトアンクアメン王の治世における政治体制と高官について

第4部会 [4-1セミナー (ジュリーホール4階)]

	時間	発表者	研究題目
1	10:30-11:00	関廣 尚世 村治 笙子	カジュバルダム水没危機遺跡群の踏査成果と今後の課題
2	11:05-11:35	田澤 恵子	エジプト西方砂漠ハルガ・オアシス アル・ザヤーン神殿遺跡の調査
3	11:40-12:10	深谷 雅嗣	祭礼における高級神官の任命:アメンの神妻(Hm.t -nTr)の場合
昼休			
4	13:30-14:00	藤井 信之	プトレマイオス朝初期の(大)将軍たち
5	14:05-14:35	小茄子川 歩	インダス式印章の「発明」
6	14:40-15:10	土谷 遥子	ダレル・マジェネイ支脈溪谷現地調査 (2010)『法顕伝』陀歴仏教寺院とブグッチ遺跡に関連して
休憩			
7	15:25-15:55	岡村 知明	インド・カティアワール地方における中世の都市構造に関する考察
8	16:00-16:30	蓼沼 理絵子	中世セファルディームの種なしパン:ハガダーや教訓書に見る伝承とイメージ

第5部会 [3-1セミナー (ジュリーホール3階)]

	時間	発表者	研究題目
1	10:30-11:00	横内 吾郎	ウマイヤ朝後期の婚姻政策
2	11:05-11:35	橋爪 烈	「正統カリフ」概念の確立とその意義について
3	11:40-12:10	柳谷 あゆみ	ザンギー朝ヌール・アッディーンへのヒドゥマ:軍役及び移動の記録を中心に
昼休			
4	13:30-14:00	四日市 康博	イル＝ハン朝期アルダビール文書にみる東西ユーラシア交流
5	14:05-14:35	太田(塚田)絵里奈	後期マムルーク朝書記官僚の肖像:ザイン・アッ＝ディーイブン・ムズヒルを例に
6	14:40-15:10	山口 昭彦	サファヴィー朝の多民族統合と移住政策:クルド系諸部族の東部移住をめぐって
休憩			
7	15:25-15:55	松尾 有里子	近代オスマン帝国における女子教育制度の導入
8	16:00-16:30	宮武 志郎	オスマン朝末期のユダヤ教徒:万国イスラエル連合を中心に

第6部会 [2-1セミナー (ジュリーホール2階)]

	時間	発表者	研究題目
1	10:30-11:00	近藤 洋平	東方イバード派におけるハワーリジュ派叙述の展開
2	11:05-11:35	倉澤 理	初期アシュアリー派神学著作における原子論の位置づけに関する再考の試み:ジュワイニー(イマームル・ハラマイン)の神学著作を中心に
3	11:40-12:10	矢口 直英	イブン・シーナー『動物論』におけるヒト
昼休			
4	13:30-14:00	中西 悠喜	『親密の灯』緒言冒頭部に見るファナーリーの学問論
5	14:05-14:35	波戸 愛美	ジャーヒズの『書簡集』にみられる奴隷について
6	14:40-15:10	浜本 一典	トゥーフイーのマスラハ理論とその評価
休憩			
7	15:25-15:55	高橋 圭	20世紀前半のエジプト社会とスーフィズム:タリーカ系諸団体の活動から
8	16:00-16:30	丸山 大介	現代スーダンに見るタサウワフとサラフの関係:ルカイニー教団を事例として

ポスター発表

[博物館学ホール(ノートルダムホール東棟2階)]

発表者	研究題目
小高 敬寛	北レヴァント土器新石器時代編年の精細化に向けて: テル・エル＝ケルク遺跡東トレンチの出土土器から
関廣 尚世、村治 笙子	スーダン共和国における彩色壁画について
吉村 作治、黒河内宏 昌 柏木 裕之、西坂 朗 子、高橋 寿光、山田 綾乃	エジプト・ギザ、クフ王第2 の船の船坑の蓋石調査
月本 昭男、長谷川修 一、小野塚拓造	テル・レヘシュ遺跡第6次発掘調査報告
銭廣 健人	スーダン図書館所蔵のマカダム・コレクションについて
長谷川敦章	紀元前2千年紀後葉のキプロス土器の独自性と流通: 古代オリエント博物館所蔵資料の分析を中心に
紺谷 亮一、須藤 寛史	トルコ共和国カイセリ県一般調査(KAYAP)
永井 正勝	古代エジプトの神官文字に対する「画像を利用したデータベース」の概要
菊地 敬夫、犬井 正 男、佐藤真知子、吉村 作治	アメンヘテプ 3 世王墓の埋葬室に描かれた壁画の史料化に向けたデジタル画像化～その 2～
門脇 誠二、久米 正 吾、下釜 和也、西秋 良宏	ユーフラテス川中流域の先史遺跡: 第五次踏査報告
河合 望	王家の谷・西谷、アメンヘテプ3世王墓出土の副葬品について